

第19回山のトイレを考えるフォーラム記録
テーマ『携帯トイレ先進地を目指して』

2018年3月10日（土） 14:30～17:00（受付14:00）

札幌エルプラザ2階 環境研修室1・2 参加者数：34人

（総合司会：副代表 小枝正人）

1. 開会挨拶

代表 岩村和彦

- ・美瑛富士避難小屋に環境省がテント型携帯トイレブースを設置して、維持管理を北海道の山岳9団体が担う取組みを開始してから3年が過ぎた。行政と利用者が一緒になって山岳環境の改善に取り組んでいる例は全国的にも少ないと思う。
- ・以前に比べると相当良くなっていると思う。しかし、依然としてトイレ紙は散らかっているし100%改善とは言えない。
- ・環境省のアンケート調査結果では携帯トイレ利用の認識率は約7割、所持率は約6割。登山者の半数以上があたり前のように携帯トイレを所持している時代になっている。会を立ち上げた19年前から比べたら山のトイレ問題に対する登山者の意識は本当に変わってきた。
- ・今年は4年目の試行実施。願わくば毎年毎年、皆んなでテントを担ぎ上げ、秋には撤収するという作業から一日でも早く解放されたいと思う。
- ・ただ固定ブースが設置されればそれで済むというものではなく、維持管理は続けていかなければならない。

2. 山のトイレを考える会活動報告…資料集参照

事務局長 仲俣善雄

3. 発表…資料集参照

- (1) 美瑛富士携帯トイレシステム試行3年目の報告
環境省上川自然保護官事務所 統括自然保護官 榎 厚生
- (2) 美瑛富士トイレ管理連絡会活動報告
山のトイレを考える会 事務局長 仲俣善雄
- (3) トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト1年目の活動報告と今後の取組み
北海道十勝総合振興局環境生活課 主任 牛嶋あすみ
- (4) トムラウシ山登山道及び南沼野営指定地の利用状況調査について
環境省上士幌自然保護官事務所 自然保護官 原澤翔太
- (5) 黒岳トイレの今後の改善に向けて
上川総合振興局環境生活課 主査 佐藤公一

4. 総合討論

コーディネーター 代表 岩村和彦

- 話題 ・ 携帯トイレ普及取組の認知度、携帯トイレ所持率を向上させるには
・ 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言について

福井（空知総合振興局） …登山者が美瑛富士登山口ゲートの鍵番号を森林管理署に問い合わせた時に携帯トイレの所持を呼びかけているのですか。

伊吹（労山道央地区連盟） …私が問い合わせた時はそのようなアナウンスは無かった。

小枝（山のトイレを考える会） …南沼汚名返上プロジェクトではアンケート調査など森林管理署に協力をしていただいている。今年度は森林管理署のHPにも携帯トイレ所持の呼びかけを掲載してもらうなど協力をお願いしたいと思っている。

滝澤（知床山考舎） …アンケート調査で「携帯トイレを持ってきているが使わない」の理由が「日帰りだから」がある。皆さん大便是携帯トイレを使うが、小便是許されると思っている人が多いのではないか。その部分の普及啓発、小便でも携帯トイレを使いましょうというのが宙ぶらりんになっている。

南沼の携帯トイレを所持していない人の割合は道外の人が多いのは意外だった。もしかすると縦走する人の登山ルートが影響しているのではないか。白雲、忠別、ヒサゴにはトイレがある。表大雪から入ってくる登山者は南沼で携帯トイレを使わなくてもそのまま抜かれる。勿論、日中の小便の方は携帯トイレを使って欲しい。縦走で我慢する所で我慢して使わない人は携帯トイレの所持数を少なくしているのかも知れない。トムラウシ温泉側から入り南沼で一泊する人は携帯トイレ所持率が高いのではないか。登山ルートの向きが分かればいいのかと思う。

岩村（山のトイレを考える会） …小便に携帯トイレを使う、使わないは宙ぶらりんになっていることは現実的にある。これからどうしていくか考えなければならない。大雪山国立公園の携帯トイレ普及宣言にも関係する。大雪山国立公園に入る人はどのルートを通ろうが、携帯トイレを持って入ってくださいということですね。

榊（上川自然保護官事務所） …おしゃるとおりです。

岩村（山のトイレを考える会） …1月27日のシンポジウムに参加した人の殆どは宣言（案）に好意的であった。北海道の山の中で一番の問題は、南沼や美瑛富士は携帯トイレで持ち帰なければならないが、他の山に登るのであれば別にいいじゃないかというイメージがある。私が理想とするのは、少なくとも夏道登山する人は装備の中で携帯トイレを持っている

るのはあたりまえ、大雪山に限らず北海道の山に登るのだったら携帯トイレを持って入ってくださいが常識になることだと思う。大雪山国立公園の携帯トイレ普及宣言は導入部分としていいことだと思う。

黒田（大雪山国立公園パークボランティア連絡会）…当連絡会は今年30周年を迎える。山のトイレ問題の取組みは大雪山の自然を守るためには欠かせない。大雪山を歩いていて明らかにトイレ臭のする場所がある。携帯トイレ普及宣言に協力していきたい。大雪山の山頂部にトナカイの餌になる地衣類がたくさんある。大雪山は他の日本の山と比較できないような繊細な自然を抱えているのが魅力である。この魅力はあまり伝わっていない。これを伝えていき自然を守ること、山のトイレ問題にも積極的に取り組んでいきたい。

坂下（様似町）…アポイ岳の登山者は年間8000人ほど。テント型携帯トイレブースが5合目に2基設置している。毎年、ブースの中で直接排泄する人が1～2件ある。年2回、ハイシーズンに役場、振興局、警察を交えて携帯トイレを無料配布して啓発をしている。ただアンケート調査は6年前位にしか実施していないので、今一度確認の意味で実施したいと思っている。ただ肌感覚では携帯トイレを持参している人が多くなった。アポイはファンクラブが主導で行政が後から協力（支援）している形ですが、美瑛富士とトムラウシは役場がどのように関わっているか教えて欲しい。

牛嶋（十勝総合振興局）…南沼汚名返上プロジェクトは大雪山国立公園新得地区登山道維持管理連絡協議会（会長は新得町長）の部会。事務局は十勝総合振興局。携帯トイレの回収処分、回収数の把握は新得町でやっていただいている。

私が懸念するのは人が変わったり、予算が無くなった時に今やっている活動がゼロに戻ってしまうと、やった意味が無いですし、また同じ問題が再発してしまうので何とか次期に体制を残していきたいと思っている。

滝澤（知床山考舎）…知床は町役場（斜里町と羅臼町）、環境省、北海道、林野庁、山岳会もそれぞれ二つずつある。知床も登山道維持管理協議会があり、年度始めに打ち合わせをして年度の活動を決めている。トイレ問題に関しては北海道が広報、町役場が携帯トイレの回収処分、回収数の把握を担当している。

長谷川（日本山岳会）…日本山岳会の支部懇談会を毎年持ち回りでやっている。今年は北海道支部が幹事。7月21日～22日に全国から100～200人ほど集まって登山会を開催する。「銀泉台－赤岳－黒岳」「黒岳－桂月岳」「市根井ミュージアム見学」の3コース。登山のハイシーズンに黒岳トイレを大勢の人が利用することになる。極力迷惑がかからないようにしたい。山のトイレを考える会で作っている山のトイレマップ等を配布して啓発

できればと考えている。どのようにするとよいかアイデアをいただきたい。

高橋（㈱総合サービス）…携帯トイレブースを担いで黒岳トイレの前に設置するとか、回収ボックスの位置を事前に周知するとかが考えられる。

岩村（山のトイレを考える会）…当会からは啓発ツールの送付等、できるだけ協力したい。携帯トイレの認知度をどうやって上げるか、山岳会ではどのような取組みをしていますか。

伊吹（労山道央地区連盟）…労山道央地区連盟は札幌、小樽、函館地区の山岳会20団体で構成している。連盟所属の山岳会は個人装備に携帯トイレを持つことになっている。所属山岳会では携帯トイレの勉強会を順次実施している。私は山のトイレを考える会の事務局運営委員でもあり、私が講師となり出前で実施している。各山岳会では自然保護委員長が会員に対して携帯トイレのレクチャーを行い啓発している。

岩村（山のトイレを考える会）…未組織登山者へ携帯トイレの認知度向上させるアイデアは何かありますか。

杉下（未組織登山者）…私は最初、どこで入手すればよいのか分からなかった。登山者が一番寄るのがコンビニ。あそこの山はあのコンビニと大体決まっている。そのようなコンビニにターゲットを絞って、携帯トイレを販売してもらえれば忘れた時に登山者は助かる。販売の働きかけを行政からしてもらえればと思った。

伊吹（労山道央地区連盟）…労山はどこの山にも関係なく個人装備としている。

滝澤（知床山考舎）…知床ではウトロのセブンイレブンで携帯トイレを販売している。H27は10個、H28は0個、H29は0個と売れていない。知床全体でH28は1159個、H29は605個販売。登山口のホテル地の涯では年間500個売っていたが、H29は休業して売っていないので減った。しかし回収数は600個～700個と変わっていない。ウトロのセブンイレブンでは使った後持ち込まれる事態が発生し2～3年一時販売を止めた。その後理解を得て再度置いてもらっているけど売れていない。周知方法が問題なのかなと思う。

岩村（山のトイレを考える会）…昨年、当会では美瑛富士避難小屋に無料の携帯トイレを配備し、登山者に108個使っていただいた。本来は受益者負担で有料が基本だが管理人もいないので徴収は難しい。今は普及する時期と割り切っている。幸いに先日、(株)リコーさんから寄付金をいただいた。それを原資として今年もその施策を実施する予定である。

明田（北海道山岳連盟）…Youtubeで携帯トイレの使用方法を発信すると、携帯トイレに対する抵抗感が少なくなるのではないかと。特に未組織登山者は携帯トイレがあることは分かっている。「でもなあ、あれを使うのは嫌だよなあ」が本心。使用方法を映像で流し、山トイレのHPからリンクすれば意識が変わるのではないかと。また大雪山は道外の旅行会社が入っている。特に山の旅行会社に直接働きかけるのが効果的と思う。

岩村（山のトイレを考える会）…当会では昨年、白雲避難小屋小屋に携帯トイレを250個提供。管理人さんがいるので有料（協力金）とした。持っている人が多く配布は23個にとどまった。この小屋は管理人さんの努力もあり、毎日、落ちたティッシュを便槽から回収しておりいつも綺麗な状態。約15年前のヒサゴのトイレはゴミ箱と化し酷い状態だった。紙が入ると嵩が3倍になる。当会は汲み取り期間を延ばすため、山小屋のトイレについても紙を持ち帰るようにお願いしている。

横関（労山道央地区連盟）…美瑛富士避難小屋のテント型携帯トイレブースの台風対策と固定式携帯トイレブース設置の見通しを教えて欲しい。

榊（上川自然保護官事務所）…台風対策は固定式ブースを設置することだと思う。固定式にするために必要なことは、整備以降の維持管理体制をどうやっていくか。そこをしっかりと見通しを立てて解決していくことが一番大きな課題。関係する皆さまに相談しながら取り組んでいる。

岩村（山のトイレを考える会）…横関さんの質問した部分は当会としても逐一意見交換させていただいている。毎年毎年、春にテントを担いで行って、秋になったら降ろす作業は永遠には続きませんので、なるべく近い将来には固定式にしてもらいたいと思っている。

吉田（山のトイレを考える会）…羅臼湖にトイレブース、回収ボックスがあったが、登山者はこない。必要がないのではないかと。設置した意図が分かれば教えて欲しい。

滝澤（知床山考舎）…羅臼湖も国立公園内。一般の観光客に近いトレッキング利用。都市型の公園に近い感覚で訪れる。トイレに関して何も無い状況だとどこにでもされてしまう。登山者のためではなく安心材料として置いていると聞いている。

(以 上)

(文責：山のトイレを考える会 仲俣善雄)